

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 高見 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

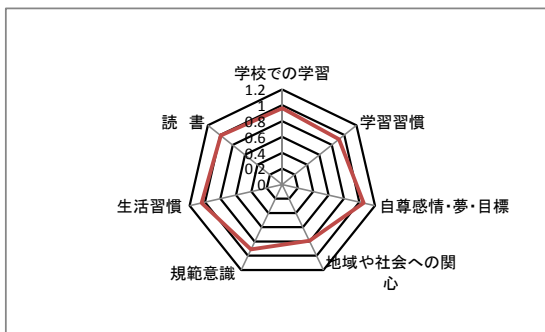
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回ることができた。全体的に全国平均よりも高い正答率が見られた。 ・全国平均を上回っているものの、同音異義語の漢字を書く問題の正答率が低かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	漢字を書く・読む問題の正答率が一部低いものがあった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回ることができた。全体的に全国平均よりも高い正答率が見られた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉える問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える問題の正答率が低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回ることができた。全体的に全国平均よりも高い正答率が見られた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	小数の乗法の計算において、乗数を整数に置き換えて考えるときの、乗法の性質を問う問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を問う問題の正答率が低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回ることができた。全体的に全国平均よりも高い正答率が見られた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述する問題の正答率が低かった。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームをする時間は全国平均よりも少ないものの、普段の学習時間が1時間以上の児童の割合は半数という結果であった。家庭学習を充実させる取組をさらに進めていく必要がある。</li> <li>・授業などで自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることに抵抗を感じる児童は減少傾向にある。ノート指導等に力をいれてきた成果が出てきている。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> <li>○「わかる授業づくり5つのポイント」を意識した授業展開を継続していく。(学級)</li> <li>○学校で統一した「話型」をもとに、「自分の考えを書いて、説明する力」の育成を図る。(全校)</li> <li>○算数科・理科において、少人数・TT指導による個別指導の充実を図る。(学年・学級)</li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年×10分間の家庭学習について、全職員で家庭学習の内容・量等について共通理解を図る。</li> <li>○各学年の実態に応じた宿題に取り組み、点検(評価)を徹底する。</li> <li>○学校便り・学校ホームページを通して、全国学力・学習状況調査の課題と取組を保護者へ周知する。</li> <li>○「高見中学校区で目指す児童・生徒の10のすがた取組」を保護者に配布することにより、小中・家庭・地域で連携して、系統的に一貫した指導に当たる。</li> </ul>
--